

奈良市まちづくり市民会議（第7回） 会議資料一覧

- 会議次第
- 各委員の考えた市全体の将来像
- 奈良市まちづくり市民会議 提案書（素案）
- 第8回会議での発表について
- 奈良市まちづくり市民会議（第7回）のふりかえり
- 参考資料
 - ・ 奈良市民意識調査報告書 平成21年度（抜粋）

奈良市まちづくり市民会議（第7回）会議次第

平成22年2月19日（金）午後7時～
奈良市役所 中央棟6階 正庁

- 1 開会 19 : 00

- 2 市民会議代表・副代表の選出（結果報告） 19 : 05

- 3 グループワーク 19 : 10
『奈良市全体の将来都市像づくり』
目 的：奈良市全体の将来都市像を考える。
内 容：各委員が考えた「奈良市全体の将来像」や、第6回会議で事務局が提供
したキーワードをもとに、「奈良市全体の将来像」を考える。
（各分科会を1つのグループとする。）
目 標：「奈良市全体の将来像」（案）をグループごとにまとめる。

- 4 グループ発表 20 : 10
・各グループで考えた「奈良市全体の将来像」（案）を発表。
（3分×6グループ）

- 5 「奈良市全体の将来像」（案）のまとめ（全体での話し合い） 20 : 30
・各グループが発表した「奈良市全体の将来像」（案）を集約し、市民会議全体の
意見としての「奈良市全体の将来像」（案）にまとめる。（複数の案になってもよ
い。）

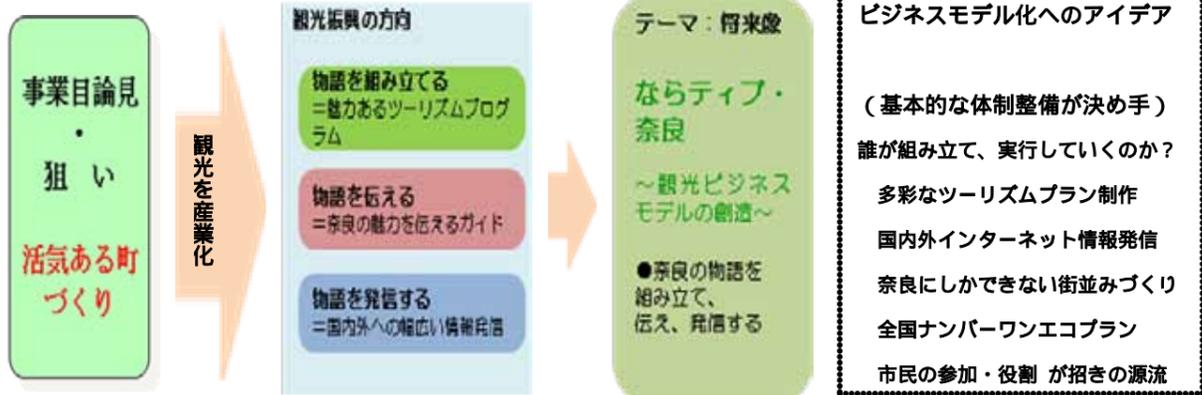
- 6 閉会（事務連絡） 20 : 55

各委員の考えた市全体の将来像

タイトル（奈良市全体の将来像）	奈良市全体の将来像を考えた理由（奈良市が のようなまちになってほしいと考えた理由）
奈良の始まり、日本の始まり	<p>奈良の歴史を再確認し、あらためて学習・整理し、それらをこれからの日本に役立つことに替えていく。</p> <p>歴史を単に観光とか収益のひとつと考えるのではなく、古を学び不明な点や謎を解き明かす作業を続けることで、県内外の人が集うことを目指す。</p> <p>人が集まれば、その後収益がついてくると思います。</p> <p>たとえば、キトラ古墳に描かれた星宿図を現代の天文図と比較し、空気のきれいな奈良で、夜の観星会とでもいうような催しをやってもいいのでは？</p> <p>歴史とは、古いことではなく、これから生きる知恵の元であり、それらを活性化することで奈良市の奈良市たる未来を切り開くものと考えます。</p>
奈良のころと遺産を伝える	<p>奈良の貴重な歴史・自然遺産を、奈良のころとともに奈良市民が、子供たちや日本・世界の人々に伝えるような市であってほしい。</p> <p>各分科会のテーマ別将来像をみても、「次世代につなげる」という意味合いのものが多く、まったく新しい奈良を目指すのではなく、今ある奈良を伝えていくという姿勢が歴史都市の奈良らしいと考える。</p>
みんなが住みよいしなやかなまちづくり	<p>子育てが安心して出来、高齢者に不安を感じさせないまちを作る。</p> <p>そのためには、近隣の顔がみえる人間関係が必要である。小学校区レベルの生活活動範囲の中で「住みたいまち」を実現させる取り組みが必要で、これを実施する横断的な組織が必要。新たに作るかどうかは地域によりちがうと考えられる。既存の組織の活性化でも良い。この流れの中でしっかりしたコミュニティが形成できる。また、市域全体に関しては、課題解決手法を持つNPOなどが行政と協働し、各地域支援にあたる。</p> <p>人的資源の発掘と活用、これから必要となる人材の養成、これらも踏まえつつ、奈良市の資源である歴史と文化、環境を生かす観光の在り方も考える。各地域の特色を生かしつつ相互に補完できるしなやかさを持ったまちづくりが必要だと考える。</p>
いつまでも笑顔で暮らせるまち 奈良 ～市民ひとりひとりが、市民としての誇りと責任を持って生きるまち～	<p><理由></p> <p>奈良市が持続可能な都市になるためには、地球環境の改善と、これからの担うひとづくりが最も重要な課題であると考ええる。また、個々の政策は、市民が根底に持つ意識のまとまりがあってこそ有効なものとなり、繋がりを持つものになると考える。</p> <p><少し細かく></p> <p>環境 ひとりひとりが地球に優しく生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の環境問題もひとりひとりの力の結集でくい止められることに気づき、動く。 <p>ひと ひとりひとりが人に優しく生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの幸せがみんなの幸せにつながることに気づき、動く。 ・すべての子どもたちが次の世代の担い手であることに気づき、動く。 ・すべての市民が市政の担い手であることに気づき、動く。 <p><私の思い></p> <p>あたりまえのことばかりですが、ひとりひとりが度々意識し、自らの考えや行動を見直すことが大切であり、行政がリードして欲しいと思います。個人主義の時代となり、自分さえよければという意識が強い世の中を少しずつ変えていければと思います。</p>

タイトル（奈良市全体の将来像）	奈良市全体の将来像を考えた理由（奈良市が のようなまちになってほしいと考えた理由）
美しい自然・文化遺産を受け継ぎ、健康と福祉が伸びゆくまち なら	<p>1．美しい自然は美しいまちに通じる。放置自転車・広告・ごみのないまちなみを市民の手で…。</p> <p>2．奈良の伝統文化遺産は世界に誇れるもの。市民の誇りとして後世に引き継ぐ責任がある。</p> <p>3．未来に育つ子どもの心身の健全発達、働く若者たち、年老いた人もますます健康であることはまちが明るく活気づく。健康は何ものにもかえ難きこと。</p> <p>4．観光都市ならを訪れる人への親切、高齢者・弱者への優しさ・思いやりなど、福祉の充実したまちづくりをめざす。</p> <p>5．地域コミュニティの原点は、身近なところで支え合うことから始まる。足許に支え合うきっかけをつくり、その輪を広げて安心・安全なまちを育てる。</p>
「幸せで魅力あるまちは、私達がつくる」	<p>私達の住んでいる奈良をどうするかは、市民の大きなテーマであると思います。つまり「安全、安心で心やすらぎ、みんながこの奈良に集まってくるまち」を作りたいと思います。</p> <p>反面、行政面からみますと、高齢社会の中で景気が低迷し、税収が大幅に落ち込んで大変な時期の中で、市民や団体事業者が連携して、自分のことだけではなく、行政と協働・共生して地域の全員心を合わせて、社会に貢献すべきであると思われれます。</p>
人、自然、歴史を大切にするまち。	<p>奈良市の特色の1つは、その歴史と良好な自然環境である。それ故に、歴史都市あるいは観光都市と呼ばれることもある。これらを今後も大切にすて行く必要があることについては、ほとんど異論がないであろう。</p> <p>しかし、これからの時代は歴史や自然を大切にするといっただけでは不十分である。何よりも、そこに住む市民が大切にされなければならない。あまりにも当然のことであり、敢えて取り上げるまでもないとの考えもあろう。確かに、経済成長と技術の進歩が続いた右肩上がりの時代にはそうであったかもしれない。しかし、今や日本は、少子高齢化、人口減少及びこれに関連して歳入の低下、財政難という、これまでの右肩上がりの時代とは全く異なった厳しい時代を迎えることになる。即ち、高齢者をはじめとして、サポートの必要な弱者が増えるであろうが、行政にそれを支えるだけの財政力が残っているか、はなはだ心許ない。行政も市民も全ての市民を大切にするといっ意識とそれに沿った行動が必要となるであろう。このような思いを込めて、大切にする1番目に人を挙げている。</p>
世界に誇れる歴史（伝統行事）、文化、自然を守り、活かし、伝え 安心安全で生きがいと誇りをもてるまち 奈良	<p>世界に誇れる歴史、文化、自然をアピールするためにも、奈良公園付近に奈良を代表する歴史館の建設が必要か？（なら奈良館はなくす）</p> <p>伝える必要性から次世代の為、小・中学生徒に歴史、伝統行事、自然にふれるチャンスを今以上に広げる？</p> <p>安心・安全があり、生きがいと誇りを持ってもらう為、充分とはいえない福祉・医療・介護・教育・子育ての一層の充実を図る？</p>
人のつながりを育む温かい町 - 奈良	<p>現代社会の大きな問題は人々のつながりの希薄化、喪失である。</p> <p>私の28年の教職経験を振り返ると、学校では年々子どものトラブルが多発化していった。これは子ども自身がその場で問題を解決できず、保護者間の大きな問題に発展することが多かった。（そのことが教師の多忙化の一因である。子ども同士で解決しておればと何度思ったことか。）現代の子どもは人間関係づくりが苦手な自分の気持ちを表現できず手や足が出てしまうことが多い。普段からの遊びが室内ゲームやテレビ、ビデオなど一人遊びが多く群れて遊ぶことが少なくなり、地域の人との関わりも少なくなってきたことが大きな原因であろう。</p> <p>子どもを育むためには以前から3つの間が必要であるといわれる。それは時間、空間、仲間である。現代の子どもたちは習い事に追われ、自由時間が少なく、安全な遊び空間が少なく、一緒に過ごす仲間も乏しい状況にある。このような環境に育った子どもたちは、学校では人間関係ができにくく、トラブルを起こしやすい。トラブルを起こしてもその解決方法が分からないのであろう。</p> <p>これは学校だけでも、家庭だけでも解決できるものではない。学校、家庭、行政が一体となって人と人とのつながりを育まなくてはならない。世代を越えて人々がつながり、互いに敬い合う温かい人間関係のある町が奈良市の将来像であると考える。</p>

タイトル（奈良市全体の将来像）	奈良市全体の将来像を考えた理由（奈良市が のようなまちになってほしいと考えた理由）
<p>持続可能な環境古都・奈良 （ 2人の委員から同じタイトルの提案がありました。）</p>	<p>奈良市全体が快適な住宅都市であり、住みたい都市として発展していくには大きく分けて次の2つの分野が如何に整備されていくかが課題であり基本条件だと考えます。現状の奈良市に欠如しているこれらの基本条件が解決されれば、快適住宅都市と変貌し真に「持続可能な環境古都・奈良」と考える故であります。</p> <p>コンパクト・シティ 脱・自動車の交通システム : 地域のマイカー規制、歩道/自転車道整備、LRTの整備、大規模SC規制 市街地の拡大抑制 : ダウンゾーニング、地区計画の地域拡大、新築抑制/ストック活用</p> <p>美しい景観形成 : 歴史的町並み保存、無電柱化・電線の地中化、緑あふれる街路樹整備、高層建築物規制、屋外広告物規制、建築物/工作物の色彩規制</p> <p>快適な住環境を維持するこれらの項目の拡充と実行が奈良が奈良として将来も持続可能となっていくと考えます。</p> <p>歴史・文化・自然・環境・経済・社会・景観・交通・教育・福祉・市民の満足など、あらゆる側面を包括し未来社会へ向けた今日的な目標概念は、「持続可能性」において他にない。何故なら、それが<u>個別の達成目標の大前提</u>であるからだ。つまり、仮に個別の目標が達成されたとしても、それが市民の（人類の）永続的な幸福の条件に反するものであれば、正当性を持ち得ない。</p> <p>この将来像としての表題は、第5分科会として既に提案済みだが、前回の発表のあと分科会内では、「<u>第5分科会は既に奈良全体の将来像を出してしまった</u>。分科会としての提案は、むしろその前段の、『過去・現在・未来の連続性』と『人工と自然の調和』、などとすべきだったか。」という趣旨の議論がなされた。</p> <p>前回の発表のとおり、奈良市全体の将来像は「持続可能な環境古都・奈良」の概念図（別紙）によって骨格を模式的にお示した。これは、都市及び地域における持続可能性の概念を1)環境、2)社会、3)経済、4)文化に切り分けて、全ての基盤にある環境的持続可能性を大きな円で示し、その上に社会的・経済的・文化的持続可能性を花卉のような領域設定をし、それらが重なり合う中央に市民生活を配置し、各領域に奈良市が必要とする概念（言葉）を置いたものである。</p> <p>これは、第5分科会の提言（キーワード）のみならず、他の分科会からの主要な提言も取り入れ、構成されている。当分科会内の議論では、もう少し人の気持ちや暮らしなど、ソフトな面を補強すべき、との意見があったが、それについては他の分科会からも言葉を頂戴し中央部分の、市民生活を拡大して補足すれば、より明快で説明しやすい概念図になると思われる。</p> <p>都市における「持続可能性」の内容は、概念図に記されたキーワードで代表されるが、実際はもう少し具体的な施策案や心に響く言葉で内容を明らかにすることが必要である。次回のまちづくり市民会議には（少なくとも当分科会で提案した内容について）補足資料を提出したい。同時に概念図もさらに充実させたい。</p> <p>なお、「持続可能性」という用語が「硬い」とか「聞き飽きた」などの印象を与えるならば、「未来へつながる…」や「いつまでも続く…」など、その本質的な意味を正しく伝えるソフトな用語に置き換えることは可能である。</p>

タイトル（奈良市全体の将来像）	奈良市全体の将来像を考えた理由（奈良市が のようなまちになってほしいと考えた理由）
<p>「市民」が“隣人”と触れ合う。「市民」が“変化”に挑み合う。「市民」が“夢”を語り合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10年先への議論が不足し、その（ことの）ため必然的に「10年先のイメージ（将来像）」が語られていない。 ・「個々論」に偏り、「全体像への志向」が不足している。 ・市民の意識が「市全体思考」にまで行き着かない。 ・「夢」への議論が不足している。 ・「奈良市のあり方」への関心が不十分であり、「あるべき奈良市」への挑戦が少ない。
<p>「歴史、自然、市民一体ならティブ・奈良」</p>	<p>今までの会議での話し合いを通し、様々なキーワードが出てきましたが、やはり「歴史と自然溢れるまちである」ということが世界に誇れる一番のアピールポイントになると思います。そこに市民が主体的に参加していくことが奈良らしいまちづくりへ繋がるのではないかと考え、上記のタイトルにしました。</p>
<p>『ならティブ・奈良』 ～観光ビジネスモデルの創造～ （観光産業の戦略展開で活気ある奈良の町づくりを目指す！）</p>	<p>(1)数年来、市では戦略会議とした活動はされているが成果を出ず実現力が欠落している (2)その結果、市の負債は3000億円にも膨大化し市民の多くが健全化に不安を抱いている (3)奈良市の発展には産業の成長が不可欠で観光産業による活気ある町づくりを提言する</p> 
<p>ならティブ・奈良 物語のある町 奈良の観光ビジネスモデルの創造</p>	<p>住んでいる人にやさしい町、旅人にやさしい町として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで世界に情報発信 ・ツーリズムプランの提案 <p>本物がたくさんある奈良。 その本物をつなぐ物語をつくり、発信していくことで奈良の魅力を伝えていく。</p>
<p>「世界遺産と豊かな自然を守り、活かし、伝えるまち 奈良」</p>	<p>平城遷都 1300年の古都は、世界に誇れるまちであり、歴史・文化・自然の豊かさがいっぱいの魅力あるまちです。この奈良市の特性を前面に打ち出し、市民と訪れる人々にアピールすることが、「奈良市全体の将来像」のキーワードです。「人をつくるまちづくり」「魅力を生かすまちづくり」「活気あるまちづくり」「住みやすいまちづくり」「市民と行政のまちづくり」「生きやすいまちづくり」という各分科会の主テーマは、世界遺産と豊かな自然を守り、活かしながら、これを基調とした持続可能な都市づくりを進める必要があります。そして、先人の智恵に学び、市民の活力を活かして、住民と行政等が協働するまちづくりを推進するのです。とりわけ、暮らしの豊かさ（健康・福祉などを含め）を実感できる世界遺産のまちでありたい。</p>

タイトル（奈良市全体の将来像）	奈良市全体の将来像を考えた理由（奈良市が のようなまちになってほしいと考えた理由）
<p>世界遺産と共生するエコ・コンパクト・シティ 副題：奈良のブランドにふさわしい良好な居住環境の形成及び将来世代への承継</p>	<p>1) それぞれの地区の実情に応じた多様なニーズが適切に実現される居住環境の整備。 ・市内を下記の5地区に大別する。 世界遺産周辺地区、旧市街地の奈良町界隈、西部新興住宅地、東部山間部の里山地区、幹線道路沿線地区。 今後も発展・成長する可能性がある地区、環境保全地区、環境復元地区に区別する。ミチゲーション（オンサイト、オフサイト）の概念の導入も必要と思う。</p> <p>2) 特に配慮を要する市民に対する居住環境の安定の確保 ・高齢化社会対応及び子育て支援 高齢者と子育て世帯の安全・安心の確保のための社会インフラの基礎的安全性の向上 共通した内容として、 従来の全総をベースとした開発型の画一型なまちづくりから脱却して、人口減少社会及び高齢社会のなかで、ひとつの地方都市においても、教育や食育、医療・福祉分野などを集約したエコ・コンパクト・シティの実現をめざしたい。</p>
<p>世界に誇る 文化 歴史 ～国際都市 NARA～</p>	<p>日本という国を語ろうとすれば、奈良抜きにはありえません。 奈良は最初に日本国家が誕生した土地であり、その文化を現代にまで受け継いでいる歴史ある都市です。奈良にある世界遺産は文字通り、日本のみならず世界のための遺産であります。外国人が奈良に訪問することは当たり前のことで、そのことが奈良に課せられた義務であると思います。その為に私たちはアイデアを考えなければなりません。 国際都市 NARA を生み出すのに私は、二つの基本を考えています。 (1) ゆったりと時が流れ、世界遺産にあふれた町 (2) 活気あふれる文化芸術の町 (1)は今までの奈良の魅力をもっと増やしていこうということであり、(2)はこれまで奈良に足りなかった現代的な奈良を売り出していこうというものです。二つは相反するようにみえますが、これは地域で分けてみればうまくいくと思います。例えば、中部東部を歴史文化地域、西部を現代文化地域など。大和西大寺あたりで分けてみたらいいと思います。ファッション産業、エンターテインメント産業等、奈良の新しい魅力を世界に発信します。 国際都市には古いものだけでなく新しい魅力も必要です。観光産業の一環として、奈良ブランドの商品の創出もいいと思います。それが新の国際都市 NARA につながるでしょう。</p>
<p>来る人にも住んでいる人にも良い町、奈良市を！ 未来に向けて、歴史と文化と自然を生かしたまちづくり</p>	<p>奈良市は、製造業などが少なく観光など外から来る人によって成り立ちます。 それは、同時に住んでいる人たちにとっても良い町でなくてはなりません。奈良に遊びに来てそのまま住みたくなる町、たびたびやってきたくなる町、住んでいる人はそれを誇りにしてやさしいおもてなしが出来るまち、そこに生きがい、やりがいを感じるヒューマンな都市をめざすことが、持続可能な奈良の町をつくっていくことだと思います。 「しみじみと感じる奈良のおもてなし」（市長賞受賞作のおもてなし標語） そのためには、恵まれた歴史、文化、自然をさらに磨き上げ、それらをいかしたグレードの高いまち、をめざしたまちづくりをして行く必要があると思います。もちろん、そのためには市民、行政、農商工業者の連携とつながり、計画作りは必須のものです。</p>
<p>行政と市民が協働する歴史都市</p>	<p>奈良市の将来（一応10年後）は現在の財政状況から財源的には厳しいものと思われる。従って、市民が辛抱しなければならぬケースも生じるが、市民は企画・実施・評価等に参画すれば納得出来る。また、市民が直接事業実施すればコストも安く出来る。 なお、第6分科会のタイトル表示の他、「協働」は第1及び第4分科会の検討内容に表記されている。 歴史都市は市民アンケートで20代から80代まですべての年代で一位となっており、また市民政策アドバイザーの望ましい都市として67.9%という高い支持率の一位となっているので、はずせない項目である。</p>

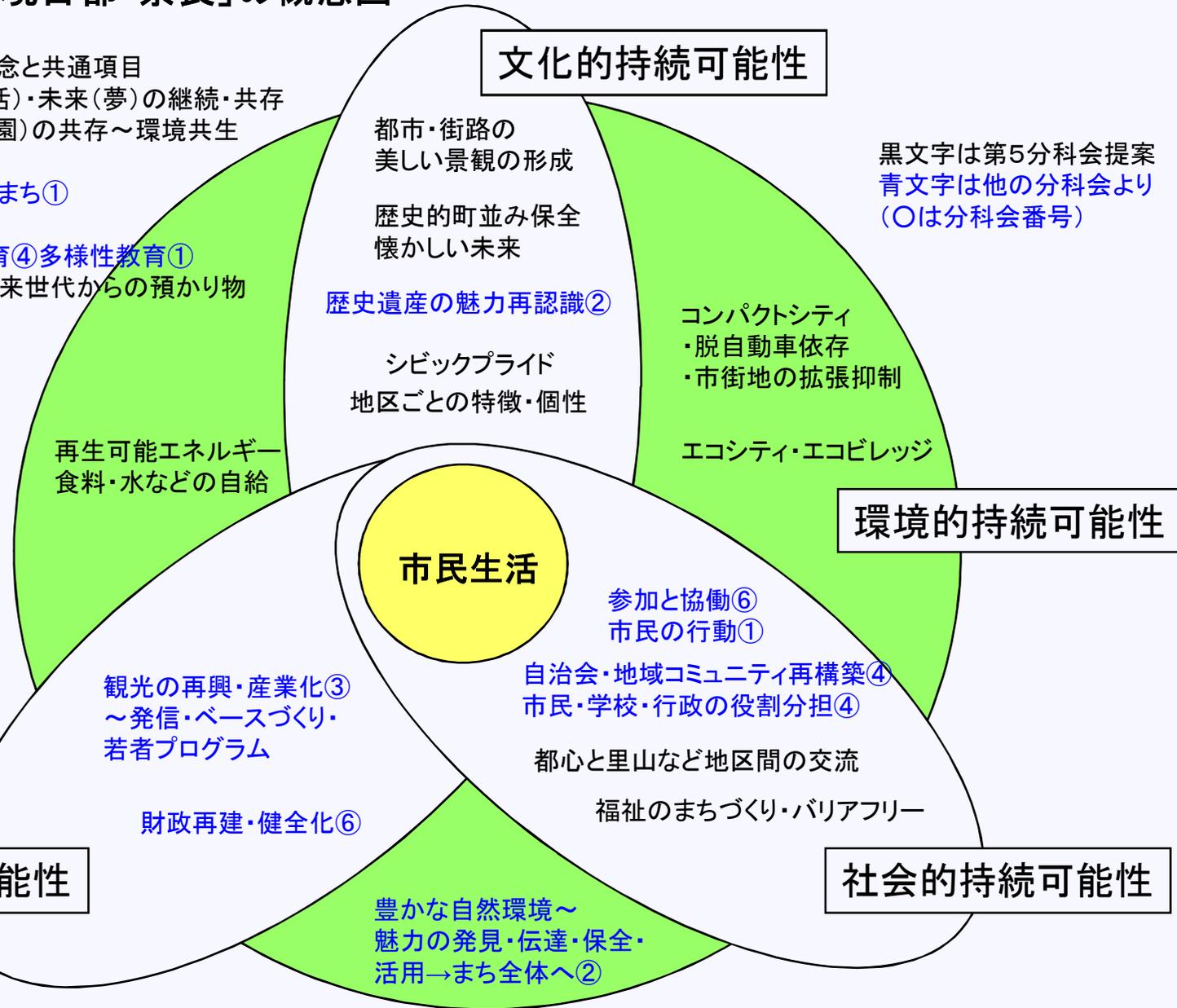
タイトル（奈良市全体の将来像）	奈良市全体の将来像を考えた理由（奈良市が のようなまちになってほしいと考えた理由）
<p>古人の叡智に学び、その魅力の真髄を世界に PR し、今後まちづくりの発展・融合・向上を目指す。</p>	<p>遷都 1300 年祭を契機に、奈良平城京が日本初の首都として、世界から様々な文化を学んだ。</p> <p>しかし、これらの外来文化に埋没せず、消化吸収した上で、伝統文化と融合させ独自の文化を築き上げてきた。それらの集大成が平城京に具現化され、精神的な内容も含めて、歴史的景観とし伝承されている。ところが、肝心の物語の真髓的な部分が、明確に理解されていないのが現状である。</p> <p>ウォーナー博士やドロステ事務局長（奈良の世界遺産登録時の）ハンチントン教授など著名な外国人の発言や著書からも感じ取れるし、日本の歴史を辿れば間違いなくその良さが理解できる事である。</p> <p>伝統的文化を守り伝承する一方で、奈良はこれまで、阪神方面の補完的要素を受け持ってきた。</p> <p>戦時中は、空爆を避けて疎開する多数の小学生徒の受入れ、戦後の復興期に奈良は、「国際文化観光都市」として建設を進めてきたが、京阪方面は、重工業や工業・商業都市として発展、現在では、ビジネス観光都市として変貌し、近年では、水の都・ウォーターフロントを標榜しその勢いが感じられる。</p> <p>その間奈良市は、重工業地帯や煙の都と言われた都市を避けて、緑が多く、空気が澄んで、青空が見え、しかも土地の時価が安いこともあって、大阪近郊の良好なベッドタウンとして発展してきた。</p> <p>開発から 55～60 年を過ぎようとして、住宅地にも超高齢化と現役離脱者や住宅の耐用年数・子どもらとの核家族化などの問題、更には、第 2 の人生の楽園を求めての移住など様々な想定が考えられる。</p> <p>奈良における人口の流出対策は、住民に対してどのような施策を打ち出せるか、また、奈良の魅力を PR し、どれだけの人口の流入が見込めるかが課題である。各分科会に与えられたテーマを一体として融合させ核爆発のような力を発揮しなければならない。一方、緑や憩いの場所の少ない住宅地等には自然環境を積極的に取入れ、良好な水準を高め、西郊地域から大和高原北部地域の過疎地まで視野に入れた、二世帯居住や三世帯居住など、様々な要求に対応できる「住宅戦略」が必要である。</p> <p>都祁の庁舎づくりや公園づくりには、つぎの展望があるのでしょうか？...</p>
<p>「歴史的な景観を重んずる文教都市『なら』」 市民と協働して次世代につなぐまちづくり</p>	<p>* どんな都市像をめざすにしても、限られた財政の枠内では、限界がある。ましてや、今の市民の代表であるはずの議会＝議員だけには任せておけない。積極的な市民参加が必要だ。限られた財政を必ず未来に役立つ方向付けのためには、行政にも、たとえば、企業が逼迫した経済環境の中で方向付けするときの、徹底した緊縮に向けた「目」を研ぎ澄ませる変革への姿勢を持たねばならない。</p> <p>* 「市民」・「議員」・「行政マン」＝すべてが、奈良住民であることを踏まえた「協働」作業を推進することが、「歴史・文化」都市を世界発信できることになると信じます。</p>
<p>新たな国際文化交流観光都市と全世界で進行しつつあるエコ社会に対応しながら、衰微しつつある現状のベッドタウンから、市民参加で、貴重な文化遺産、自然遺産を守り、国内外からの人々を受け入れられる街並みの再生と、文化、芸術、工芸で若者も集り、賑うまち。それを維持できるやすらぎのまち。</p>	<p>1) 日本経済全体（特に大阪等）の産業の右肩上がりの成長はいまや難しく、奈良市西部地区等の少子高齢化が進み、ベッドタウン等の機能が衰微しつつある。従ってその税収も減少傾向にある。</p> <p>2) 奈良にはシルクロードの終着点としての 1300 年前の貴重な文化遺産（仏像、建築、工芸等）がいまも現存している。阿修羅像で人気を博したように、その工芸技術も現在にも通じる。今後は国際交流を盛んにして、海外にも発信し、観光客の受け入れだけでなく、文化人、工芸職人、芸能人等の召請も必要かと考える。</p> <p>3) 観光を産業化するためには、第一段階は文化工芸、語学レベルの向上した市民参加のガイドシステム、並びに情報発信システムがまず必要であるが、宿泊を含めた滞在型顧客を楽しませ、実際の消費をうながすためには、レトロで、エコ、夜も楽しめる街並等への再生と同時にやすらぎを守る管理体制の整備も必要である。</p>

タイトル（奈良市全体の将来像）	奈良市全体の将来像を考えた理由（奈良市が のようなまちになってほしいと考えた理由）
<p>「つらくても でも大丈夫 奈良だから」</p>	<p>「つらくても」というのは今助けを必要としている社会的弱者ということです。 そういう人も笑って生きられるというのは元気な人も安心して生きられるということです。 これはあらゆる施策の土台が「平和体制の構築」に向かっているなければ実現は不可能です。</p> <p>社会的弱者（弱者という言い方はもっと適切な言葉があるといいのですが、今助けを必要としている人たち）が、「奈良で生きていてよかった」と感じる街づくりを。 必ず市民みんなが「奈良は生きやすい町」と感じるはず。 「平和」をすべての考えの基礎にすえ、積極的に事業化し（奈良の売りにし）世界に展開する。（キャッチフレーズだけでなく、具体的に「平和」でスキルアップし商売にもつなげるという発想） 直接にも間接にも「平和」に反するものにはお金も力も使わない。 以上3点を奈良の宣言とし、日本の内外の自治体にアピールする。 （同意する自治体を募り姉妹都市などの結びつきを作れば、 が現実的に実現しやすくなる。）</p>

「持続可能な環境古都・奈良」の概念図

「持続可能性」の基本概念と共通項目
過去(歴史)・現在(生活)・未来(夢)の継続・共存
人工(都市)と自然(田園)の共存～環境共生

(大前提として)平和のまち①
住み継ぐ街・住居・ひと
次世代育成＝学校教育④多様性教育①
都市は先人の遺産・未来世代からの預かり物



黒文字は第5分科会提案
青文字は他の分科会より
(○は分科会番号)

奈良市の将来都市像へ向けて、第5分科会の議論を基礎に、他分科会の主要提案を含め模式化

奈良市まちづくり市民会議
提案書(素案)

平成 年 月

奈良市まちづくり市民会議

奈良市まちづくり市民会議 提案書(素案)

目 次

1	奈良市まちづくり市民会議の概要	1
(1)	奈良市まちづくり市民会議とは	1
(2)	奈良市まちづくり市民会議の流れ	2
(3)	各分科会のテーマについて	3
2	各分科会が考えた「テーマ別将来像」	6
(1)	第1分科会(テーマ:生きやすいまちづくり)	6
(2)	第2分科会(テーマ:魅力を生かすまちづくり)	8
(3)	第3分科会(テーマ:活気あるまちづくり)	10
(4)	第4分科会(テーマ:人をつくるまちづくり)	12
(5)	第5分科会(テーマ:住みやすいまちづくり)	14
(6)	第6分科会(テーマ:市民と行政とのまちづくり)	16
3	奈良市全体の将来像	18
(1)	「奈良市全体の将来像」を考えるための様々なキーワード	18
(2)	各分科会の考える「奈良市全体の将来像」	19
(3)	私たちの考える「奈良市全体の将来像」	19
4	将来像の実現に向けて	20
	参考資料	21
(1)	奈良市まちづくり市民会議委員名簿	21
(2)	奈良市まちづくり市民会議 検討経過	22

1 奈良市まちづくり市民会議の概要

(1) 奈良市まちづくり市民会議とは

奈良市まちづくり市民会議は、奈良市第4次総合計画の策定にあたって、市民との協働による計画策定を推進するため設置された会議である。

これまでの奈良市の総合計画は行政の計画であり、総合計画に市民の意見を反映させる手法は、次の2つに限られていた。

(総合計画に市民の意見を反映させるための、従来的手段)

策定初期に行う基礎調査の段階での市民意識調査
基本構想の案や基本計画の案がある程度完成した段階で実施される
パブリックコメント(意見募集)

これに対して、今回策定される奈良市第4次総合計画は、行政だけの計画ではなく、市民とともにまちづくりを進めるための計画として策定が進められている。そのため、これまでに行われていた手法だけでなく、計画策定のあらゆる段階で市民の意見を取り入れる必要が生じた。

このため、市民の意見を取り入れる新たな手法の一つとして、市民の視点から「総合計画の基本構想策定に係る奈良市の将来都市像、今後のまちづくりの基本的方向等について議論し、市長に報告する」組織である「奈良市まちづくり市民会議」が設置された。部分的ではあるものの、総合計画の原案作成の過程に市民が参加するのは今回が初めての試みである。

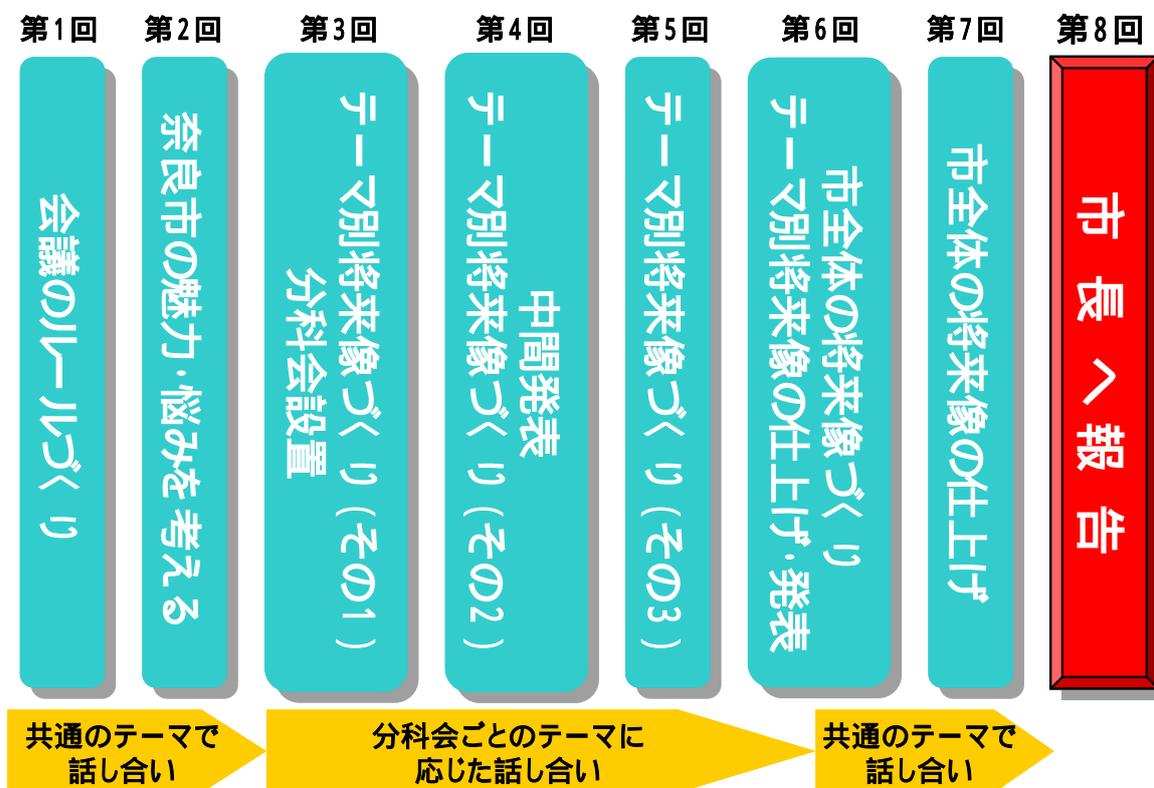
なお、まちづくり市民会議では、奈良市第4次総合計画の基本構想における「奈良市の将来都市像」及び「今後のまちづくりの基本的方向」に対応するものとして、「奈良市全体の将来像」及び「テーマ別将来像」を検討した。

(2) 奈良市まちづくり市民会議の流れ

奈良市まちづくり市民会議では、平成21年10月から平成22年3月までの間に、全8回の会議を行った。その概略は次の図のとおりである(図2 - 1)。

自主的に会合が行われた場合は、その旨を記載。

【図2 - 1】奈良市まちづくり市民会議の流れ



(3) 各分科会のテーマについて

各分科会のテーマの決定については、単一の分野だけでは対応しきれない課題や複数の分野が連携する必要のある課題が近年生じていることから、委員の考える奈良市の魅力(長所・のばすべきところ)、悩み(短所・課題・改善すべきところ)をグループ化することによってテーマを抽出する手法をとった。

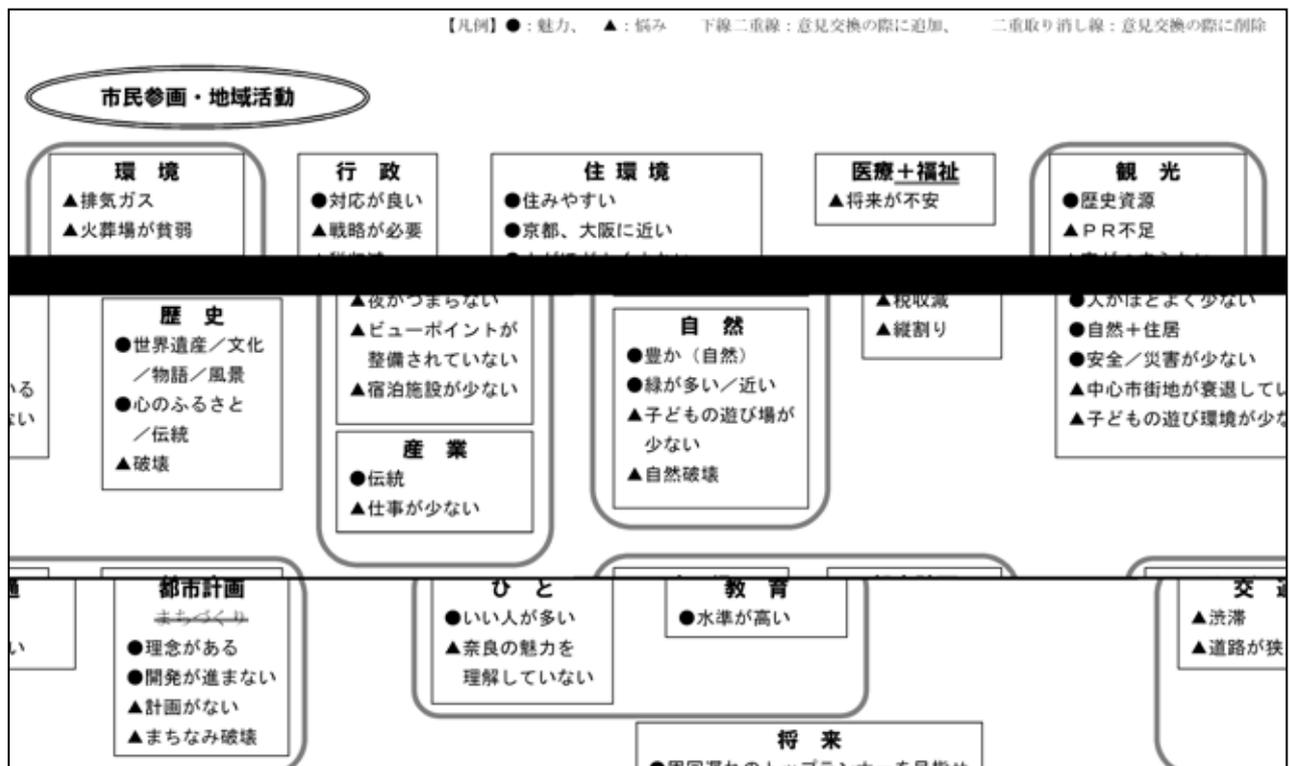
まず、第2回会議において、グループ発表をもとに、奈良市の魅力(長所・のばすべきところ)、悩み(短所・改善すべきところ)を検討し、関連するものをキーワード群としてまとめた。(図3-1)。また、各グループ内でまとめられた魅力・悩みのキーワードは、事務局が分類・整理した(表3-1)。

最終的に、事務局がこれらのキーワード群を6つにまとめ、それぞれのイメージを表現する言葉を考えて各分科会のテーマとした(表3-2)。

なお、分科会のテーマは、委員が議論を始めるための糸口として事務局が用意した仮のテーマであり、将来像そのものではない。

【図3-1】第2回会議時にまとめた奈良市の魅力(長所・のばすべきところ)、

悩み(短所・改善すべきところ)のキーワード群



【表3 - 1】第2回会議後、事務局が整理した奈良市の魅力(長所・のばすべきところ)、

悩み(短所・改善すべきところ)のキーワードと意見分類

分科会テーマ 関連キーワード	意見分類
ひと・人口・ 少子高齢化	人口減少 / 小さなまち / 少子化 / 子育て / 大学生・若者が流出 / 高齢化 / 医療
医療・福祉	医療
歴史	歴史 / 奈良のルーツ / 歴史・物語
文化・伝統	文化 / 文化力 / 文化財 / 歴史と文化財 / 文化遺産 / 伝統文化・伝統行事 / 文化的イベント / 文化活動 / 伝統技術
自然	自然 / (自然・森林・緑) / 自然破壊 / 自然風景・眺望 / 鹿 / のどか / 暮らしやすい / 静か / 空気良い / 農業
景観	まちなみ / まちの風景 / まちなみ景観破壊 / シャッターポイント / 街路樹
心のふるさと ・誇り	心のふるさと・誇り / 市民自身が魅力を知らない
観光	観光 / 宿泊 / 土産・郷土料理 / まちがコンパクト
情報発信	情報発信 / 情報発信の工夫
都市計画	都市計画 / 開発 / 市街地整備の遅れ / インフラ施設 / 街路樹の管理
産業	産業 / 製造業弱体 / 働く場がない / 地元活力 / 若者が楽しむ場所がない
観光	観光 / 宿泊 / 土産・郷土料理 / まちがコンパクト
教育	教育水準 / 子育て / 奈良の歴史・研究 / その他施設 / 平和の伝え方
地域づくり ・コミュニティ	コミュニティ / 人間関係 / 地域活動 / 自治意識の低下 / 地域間交流
市民意識	人の気質 / 保守的 / のんびり / 市民自身が魅力を知らない / 関心低い(市政・環境問題等)
人材を生かす	人生かききれていない / 協働
安全・安心 (安全・防災)	自然災害 / 防災 / 治安 / 安心(高齢者対策・人柄等)
住環境	住みやすさ / ベッドタウン
交通	交通利便性 / 人・自転車にやさしくない / 公共交通 / 渋滞 / 道路標識 / 観光ルート / 道路建設
生活環境	意外と便利 / 表示・町名 / 下水処理・廃棄物処理・斎場等 / 楽しむところ・広場・遊び場
地球環境	自然保全・自然破壊 / 交通渋滞
行政運営	財政 / その他行政運営 / 市議会・審議会

意見分類は、各グループワークで作成された模造紙に記載されている意見の分類である。

【表3 - 2】事務局が設定した分科会の分類と(仮)テーマ

分科会名	(仮)テーマ	関連するキーワード
第1分科会	生きやすい まちづくり	人口・少子高齢化 / 医療、福祉
第2分科会	魅力を生かす まちづくり	歴史 / 文化・伝統 / 自然 / 景観 / 心のふるさと・誇り / (観光) / (情報発信) / (都市計画)
第3分科会	活気ある まちづくり	産業 / (観光(主要産業として)) / (文化・伝統(伝統技術)) / (都市計画)
第4分科会	人をつくる まちづくり	教育 / 地域づくり・コミュニティ / 市民意識 / (人材を生かす)
第5分科会	住みやすい まちづくり	安全・安心(安全・防災) / 住環境 / 交通 / 生活環境 / 地球環境 / (都市計画)
第6分科会	市民と行政との まちづくり	行政運営 / (人材を生かす) / (情報発信)

()内のキーワードは、事務局が複数のテーマに関連すると判断したもの。

例) 「観光」: 奈良の主要な産業という面だけでなく、歴史・文化資源等の活用という面もあるため、第2分科会・第3分科会のキーワードとした。

「都市計画」: 都市計画は様々な分野に関連するため、一つの分科会で都市計画を取り扱うのではなく、様々な分科会で都市計画に関連する議論ができるように、第2分科会・第3分科会・第5分科会のキーワードとした。

- ・「文化財」や「豊かな自然」という魅力の裏返しとして、開発が進まないという側面がある(第2分科会)
- ・世界遺産のバッファゾーン等の区域設定に都市計画が関連する(第2分科会)
- ・産業立地を考える際に、都市計画の種々の規制が関連する(第3分科会)
- ・交通網の整備等を考える際に都市計画が関連する(第5分科会)

2 各分科会が考えた「テーマ別将来像」

(1) 第1分科会(テーマ:生きやすいまちづくり)

テーマ別将来像

いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち

背景(現状と課題)

少子高齢化の進行

- ・ 奈良市は、全国と同様、少子高齢化が進行しており、今後もこの傾向が続くことが予測されている。
- ・ このようななか、奈良市では保育園が少なく、保育料が高いなど、子育て環境が充分とは思われない。このままでは子どもはさらに減ってしまい、子どもどうしの遊びが少なくなることで幼少期に得るべき体験ができず、健全な人間関係の形成に支障が生じることが危惧されるほか、大人にとっても未来への希望をもてないという弊害がある。
- ・ 次代を担う子ども達が健やかに育つよう、子育て環境を整え、まち全体で子ども達の成長を見守っていく必要がある。
- ・ また今後、高齢化は一層進行すると考えられ、社会的支出となる医療費等を抑制していくためにも、歩きやすく自転車事故のない道や充実したバス交通などの、高齢者が元気で活動したり、働き続けることのできる環境づくりが必要である。

奈良市は平和の似合うまち

- ・ 奈良市は、日本のはじまりの地であり、平和を象徴するまちである。平和は全ての命が肯定されるということであり、「生きやすいまちづくり」の根底に流れるものである。このため、平和をテーマにしたまちづくりを展開し、次代にもつなげていく必要がある。

このテーマについて私たちの考える将来像

「生きやすいまち」は、「いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち」

- ・ 本分科会では、将来の奈良市は、弱者も含む誰もが幸せに生きることができるまち、つまり「いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち」になることが望ましいと考えた。



- ・ 具体的には、「安全安心で命が大切にされている」「平和のネットワークがある」「市民自ら行動している」まちである。

安全安心で命を大切にするまち

- ・ ここでは「子育て環境」「教育」「医療福祉」の3つの分野が考えられ、全体をとおして高齢

者・子ども・障がい者等のあらゆる市民と一緒にいられる場所があり、穏やかに和気あいあいと交流しているまちであることを祈る。

- ・子育て環境面では、小さな地域で保育の場があり、行政の垣根をこえた多様な保育が進められている。
- ・教育面では、教育関係のボランティア活動に多くの市民が参加し、外国人との言葉の教室などが開催されるとともに、教育が基本的権利として無料で受けられることが望ましい。
- ・医療福祉面では、定年で退職した市民は、専門的知識を活かして再就職したり、充実した社会基盤のもとで地域に社会貢献するなど活躍している。また、高齢者向け住宅や老人ホームなど住まいの選択肢が広がっている。さらに、医療費も無料化されていることが望ましい。

平和のネットワークをつくるまち

- ・平和のために貢献した人が発掘・紹介され、これらを含めたあらゆる交流のための情報を容易かつ的確に受発信できる。
- ・平和をテーマにしたファッション交流など多様な活動が展開され、武器も撤廃されている。

市民自らが行動するまち

- ・行政任せではなく、地域の防犯体制が確立され、市民自らが安全の確保に努めている。

【いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまちを実現するための取り組みアイデア】

安全安心で命を大切にすまち			平和のネットワークをつくるまち	市民自から行動するまち
子育て環境	教育	医療福祉		
<ul style="list-style-type: none"> ・行政の垣根をこえた保育のあり方の検討 ・小さな地域での保育の場づくり ・多様性のある保育の場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人との言葉の教室開催 ・ボランティア活動への参加推進 ・教育費無料化 	<ul style="list-style-type: none"> ・退職者層の社会協力(まちづくり貢献) ・退職者層の雇用(知識・技術継承) ・空家の借上げによる高齢者向け住宅の供給 ・老人ホームの拡充 ・高齢者が1人で外出できる環境づくり(道路・バス対策) ・医療費無料 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和のために貢献した人の発掘・紹介 ・あらゆる交流のための情報提供支援 ・平和をテーマにしたファッション交流(ファッションなど異分野とつなげる) ・武器の撤廃 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民による防犯体制づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・子ども・障がい者等と一緒にいられる場所づくり 				

(2) 第 2 分科会 (テーマ : 魅力を生かすまちづくり)

テーマ別将来像

時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち

背景 (現状と課題)

奈良市の魅力

- ・ 奈良市の大きな魅力は、1300 年の間に蓄積されてきた歴史とその姿の一部を表すものとしての世界遺産をはじめとした歴史的建造物や街並み、伝統的行事や、自然環境などがあることである。これらは奈良市だけではなく、日本、世界にとっても貴重な財産と考える。
- ・ また目に見えるものだけではなく、先人の思い (平和への思い、おもてなしの心、平和への思い) や積み上げてきた歴史そのものも、大きな魅力である。

奈良市の魅力を取り巻く問題

- ・ しかし、これらの資源には、次のような問題がある。
 -) 市内に“点”として存在し、お互いのつながりがわかりづらい、あるいは市全体としての魅力につながっていない。
 -) 交通条件などをはじめとして、市民や来街者が、これら資源をわかりやすく知るための環境が整っていないため、魅力が十分に伝わっていない。
 -) 時代とともに伝統行事や歴史的資源が失われたり、未だ魅力が認識されていないものもある。
- ・ このような問題は、様々な要因が重なった結果、起こっていると思われるが、本分科会では、市民をはじめ全ての人々が、今ある資源を当然のことと捉え、恩恵を感じていないことが大きな要因ではないかと考えた。

このテーマについて私たちの考える将来像

『時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち』とは

- ・ 本分科会では、将来の奈良市は、奈良市全体が魅力にあふれ『時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち』になることが望ましいと考えた。
 - ・ 具体的には、「皆が魅力を知り、恩恵と感じる」「まち全体が魅力にあふれる」まちである。
 - ・ まち全体が魅力にあふれることによって、奈良に行きたい、奈良に泊まりたい、奈良に住みたいという憧れの念が生まれ、奈良市の大きな課題である人口の確保、産業の活性化などにつながると考える。
- 皆が魅力を知り、恩恵とを感じるまち
- ・ 古い文献などの記録や専門家・外国人などの目を通して資源が再確認・再発見され、先人がその資源をつくった際に込めた思いが読み取られ、市民がまちの魅力を知り、恩恵と感している。
 - ・ 奈良市の魅力が未来を担う子ども達にわかりやすく伝えられている。

- ・ 情報発信・国際交流が進み、世界に広く魅力を伝えられている。
まち全体が魅力にあふれるまち
- ・ 再確認・再発見された資源をその周囲も含め、守り、必要に応じて整備(REデザイン)されて街並みが整うなど、奈良市全体が魅力であふれている。
- ・ 目に見える資源だけではなく、先人の思いから心のあり方を学び、現在の形に置き換えることなどを通じて奈良市に住み働くことことに誇りを持ち、訪れる人をもてなす心をもっている。

【'時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち'を実現するための主な取り組みアイデア】

皆が魅力を知り、恩恵とを感じるまち (知り)、伝える	まち全体が魅力にあふれるまち 守り、活かす
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古い文献や地図から、各地域に眠る資源を再発見する ・ 専門家・外国人など、違う視点を通して魅力を再発見する ・ 昔のまちづくり、行事等から先人のまちに込めた思いを学ぶ ・ 奈良市の歴史を、物語性をもって伝える、特に子どもに教育する ・ 紹介看板・ビューポイント・観察の場をつくる ・ 歴史文化をわかりやすく紹介する施設をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産をバッファゾーンも含め保全する ・ 平城宮の復元や新薬師寺の発掘を行う ・ 自然の豊かさをまち全体に広げる (街路樹や各戸の緑化) ・ 各寺院をつなぐ安全・快適な散策路を整備する ・ より良い自然景観や街並みを守るため、宅地開発・土地利用・建物の規制をする 夜間、商業系施設等の照明をやめる ・ 先人の暮らし方を学んで現在の形に置き換え実践する (環境に配慮した暮らし、もてなしの心)

(3) 第3分科会(テーマ: 活気あるまちづくり)

テーマ別将来像

ならティブ・奈良

～観光ビジネスモデルの創造～

ならティブ = narrative = 物語を伝える

背景(現状と課題)

活気あるまちづくりは観光の振興が中心

- ・ まちの活力と言える産業に関して奈良市をみると、自然や歴史に育まれた歴史遺産や住宅地の土地利用が主で、工業等の展開は困難なまちと思われる。
- ・ また、市民の多くは市外・県外に働き、外で稼いで外で使ってしまうっており、商店街をはじめとした市内の商業も衰退している現状がある。
- ・ 一方、奈良市は都がおかれてから1300年の歴史を持ち、豊かな自然を背景に、寺社仏閣などの歴史文化遺産が豊富である。
- ・ このため、本分科会では、まちが活性化した活気あるまちづくりには、奈良市の最大の資源である歴史文化遺産を活かした「観光」の振興を図ることが、最も有用と考えた。

歴史遺産は第1級なのに、観光はそれを活かしていない

- ・ 歴史文化遺産は世界遺産をはじめ、日本の中でも第1級の本物であることは、奈良市内外にも知られている。
- ・ そして、従来から「国際観光都市」を目指した取り組みが行われてきたにも関わらず、現状をみると、「宿泊者数は少なく」「夜は静かで」「若者の遊ぶところがない」など、経済の活力につながっていない。

観光の真の産業化が必要である

- ・ 本分科会では、その原因が観光に対する「ビジネスモデル」が確立していないからではないかと考えた。歴史文化資産を活かし、生活環境を守りながら、経済の発展につながるようなあり方を「ビジネスモデル」として組み立て実践していくことが、観光の産業化 = 地域の活性化につながると考える。

このテーマについて私たちの考える将来像

委員が中心となり、作成中

(4) 第4分科会(テーマ:人をつくるまちづくり)

テーマ別将来像

世代を超えて市民が力を出し合い、つながりを育むまち

背景(現状と課題)

このテーマについて私たちの考える将来像

委員が中心となり、作成中

(5) 第5分科会(テーマ:住みやすいまちづくり)

テーマ別将来像

持続可能な環境古都・奈良

～歴史と未来、都市と田園が共生する奈良～

背景(現状と課題)

「住みやすさ」の基本的な要素

- ・「住みやすい」といえば、一般的に居住性や利便性などを思い浮かべがちである。
- ・しかし本分科会では、居住性や利便性だけではなく、まちが「安全・安心」で、「個性的で美しく」、「市民が誇りをもっている」ことも「住みやすさ」の基本的な要素であり、そして何よりも、その状態が現在だけではなく、未来も持続されること(持続可能であること)が大切であると考えた。

持続可能なまちをつくるためには環境共生のまちづくりが必要

- ・近年、全国的に地球温暖化が人類の未来を脅かす重要な問題として広く認識されるようになってきている。「住みやすいまち」が、未来に持続されるためにも、今後は環境共生のまちづくりを展開していく必要がある。

このテーマについて私たちの考える将来像

『持続可能な環境古都・奈良 ～歴史と未来、都市と田園が共生する奈良～』とは

- ・本分科会では、将来の奈良市は、過去・現在・未来の連続性「持続可能性」を重視し、その実現のため、人工と自然の調和した「環境共生」を尊重した『持続可能な環境古都・奈良～歴史と未来、都市と田園が共生する奈良～』が望ましいと考えた。
- ・具体的には、都市は先人の遺産であり、未来世代からの預かり物であるという基本的認識のもと、「環境的持続可能性がある」「社会的持続可能性がある」「文化的持続可能性がある」まちである。

環境的持続可能性のあるまち 『人工と自然の調和』

- ・現状の市街地が大きく拡大しておらず、公共交通システムが整うことによって脱自動車依存も進み、人工と自然の調和がとれたまちが形成されている。
- ・太陽光・太陽熱・風力などの新エネルギーが積極的に活用され、地産池消なども進んでいる。

社会的持続可能性のあるまち 『多様な人々の関係性の継続』

- ・ライフステージに対応して多様な人々が安全・安心に暮らし、次代に住み継がれている。
- ・防災、福祉が充実しているほか、都心と里山をはじめとした多様で活発な地区間交流が展開されている。

文化的持続可能性のあるまち 『土地・時間・人がつくる価値の継承』

- ・土地・時間・人が築きあげてきた奈良市の個性が守り、活かし、継承され、都市・街路が美しい景観が形成されている。

- ・ 歴史的町並みが保全され、懐かしい未来を感じることができるとともに、地区毎の特徴・個性が活かされたまちづくりが進み、シビックプライドが確立している。

【'持続可能な環境古都・奈良 ~ 歴史と未来、都市と田園が共生する奈良 ~」を

実現するための主な取り組みアイデア】

環境的持続可能性	社会的持続可能性	文化的持続可能性
<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通システム等の充実 (マイカー規制・歩道・自動車道の整備、LRT の導入) ・市街地の拡大抑制 (逆線引き、ダウンゾーニング、新築抑制と建物ストック活用・地区計画による建物形態規制、大規模 SC 出店規制) ・新エネルギーの活用 (太陽光発電、太陽熱利用、ミニ水力発電、ミニ風力発電、バイオマスエネルギーの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災のまちづくり ・福祉のまちづくり(ユニバーサルデザイン) ・多様なライフステージに対応できるまちづくり (子育てしやすい、働きやすいまちづくり) ・市街地部と里山などの地区間交流 (食住近接・エコシティとエコビレッジ、緊急時援助) 	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい景観形成 (歴史的まち並み保存、無電柱化、街路樹の整備・管理、高層建築物の規制、屋外広告物規制、建築物・工作物等の色彩規制) ・地区の特徴を活かしたまちづくり(世界遺産周辺地区、奈良町界限、西部新興住宅地、東部山間の里山地区、幹線道路沿道地区など) ・懐かしさ、落ち着きを活かしたまちづくり(遅れていることがアドバンテージ) ・市民としての誇り(シビックプライド)の醸成

(6) 第 6 分科会 (テーマ : 市民と行政とのまちづくり)

テーマ別将来像

市民と行政の協働と健全財政のまちづくり

背景(現状と課題)

財政の健全化の必要性と課題

- ・ 奈良市は、平成20年度末時点の債務の合計は3,141億円で、一世帯あたりの借入金残額は207万円の換算になる(奈良しみんだより平成21年11月号より)とされており、厳しい財政状況が続いている。
- ・ 私たちは、次代を担う子どもたちが、家族や地域と交流し、のびのびと遊ぶことができる環境を整えたいと願っても実現がままならないことなどをはじめとする状況に、大きな危機を感じている。
- ・ 行政にあっては、行財政改革大綱(平成16年策定、18年2月改訂)に基づいて、財政の健全化を強力に進める必要がある。
- ・ しかし、その具体化の可能性を考えてみたときに、市民の眼には多くの“無駄”がありそうな行政が、民間企業の視点をもって取り組んでいくには、行政職員の意識改革が必要と思われる。

市民と行政の協働の意義と課題

- ・ 奈良市の状況から、市民(住民)、行政、企業(事業者)といった、あらゆる主体が奈良市の明るい未来を切り拓こうとする状況をつくるため、次のことを実現する必要がある。
行政は、職員に市民(民間)感覚を浸透させ、健全な財政と効率的な行政運営を実現する
市民は、要求・批判・評論を繰り返すのではなく、自らの幸せと公共の利益を真剣に考えていく
企業は、自らの事業目的を追求しつつ奈良市のまちづくりにどのように貢献するかを考えていく
- ・ また、企業は事業目的をもった団体であることから、市民と行政が“協働”することは必要不可欠であり、定数を含む市議会のあり方も見直す必要の時期にあると考える。
- ・ なお、市民と行政が真の意味で相互理解していくためには、“協働”という「市民」と「行政」といった対立的な位置で理解することも再考していく必要があると思われる。

私たちの考える奈良市テーマ別将来像

委員が中心となり、作成中

3 奈良市全体の将来像

(1) 「奈良市全体の将来像」を考えるための様々なキーワード

第6回会議において、事務局から委員に対して「奈良市全体の将来像」の考えるためのキーワードを紹介した。

まず、重要なキーワードとして、各分科会の考えた「テーマ別将来像」がある。分科会のテーマは市の現状を様々な角度から切り分ける中で生まれたものであるため、「市全体の将来像」は「テーマ別将来像」を包括するものだとも言える。

次に、第4次総合計画策定の基礎調査の一環として平成20年度に市が実施した「市民アンケート」と「中学生アンケート」の集計結果がある。ここでは、「奈良市がどのような市になることが望ましいか」という問いを設け、14の選択肢の中から3つまで選択する形で回答を得た。年代によって順位に違いはあるが、多くの年代で「文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市」、「交通事故・犯罪・公害・災害のない安全・安心な都市」、「観光者などが訪れる魅力ある観光都市」が上位3位を占めている。

さらに、奈良市都市経営戦略会議の「奈良市次期総合計画策定の方針に関する報告書」(平成21年3月)で提示されたキーワードがある。この報告書は、奈良市次期総合計画策定の方針について、外部の有識者で構成される奈良市都市経営戦略会議が討議を重ねた結果をとりまとめたものであり、この中で「奈良市の目指すべき新たな都市像を考えるにあたり重要になるキーワード」として「奈良の魅力を前面に打ち出し、アピールするためのキーワード」、「奈良市が取り組むべき方向性を示すキーワード」、「市民を主眼に置いた市政運営のキーワード」の3つに区分された19個のキーワードが提示されている。

なお、参考として、奈良市の過去の総合計画における将来都市像や、奈良市に接する近隣4市(生駒市、大和郡山市、天理市、木津川市)、近畿圏の中核市4市(高槻市、東大阪市、姫路市、西宮市、和歌山市)、奈良市と人口がほぼ同規模(±1万5千人)の中核市の総合計画における将来都市像も紹介された。

(2) 各分科会の考える「奈良市全体の将来像」

(1)のキーワードも踏まえて委員各自が「奈良市全体の将来像」を考え、それらを元にして分科会ごとに「奈良市全体の将来像」を検討した。

本日（第7回）の各分科会での話し合いの結果、
導きだされた「奈良市全体の将来像」を整理予定。

(3) 私たちの考える「奈良市全体の将来像」

本日（第7回）の分科会での話し合いの後に行われる、
全体での意見交換時の内容・結果を整理予定。

4 将来像の実現に向けて

まちづくり市民会議では、市全体の将来像と、まちづくりのテーマごとの将来像を考えてきた。これらの将来像は、ただ語るだけでは実現できない。将来像を実現するためにできることを考え、積極的に行動することにより、将来像は私たちの手に届くものとなる。

まちづくり市民会議は将来像を検討する場ではあったが、それでも多くの委員が「将来像を実現するために何をすべきか、具体的な方策を考えたい」という思いを持っていた。また、委員の中からは、「行政だけに頼るのではなく、市民自ら動くことが必要だ」という意見も出ていた。

そこで、まちづくり市民会議では、市民会議の後継組織として幅広い市民が参加する実行組織や、市民の目で事業の進捗を管理する組織を設立することをあわせて提案する。

この組織には、市内のあらゆる地域の人々が参加することができる。そして、市行政の行動をただ待つのではなく、よりよいまちづくりを実現していくため、自ら提案し、積極的に行動する。その過程で、市民の熱意が行政を動かすこともあるだろう。また、市民と市行政が連携することにより、それぞれが単独で行動するよりも良い結果を生むこともあるだろう。

奈良市のこれからのために、市行政がぜひこの提案を受け入れ、市民とともにまちづくりを進めていくことを、私たちは心から願う。

参考資料

(1) 奈良市まちづくり市民会議委員名簿

分科会	氏名
第1分科会	井上 雅由
	木村 宥子
	熊野 磯一
	田中 浩
	本間 香貴
	吉住 秀
第2分科会	上野 登統
	榎本 正範
	小西 完治
	澤崎 嘉造
	谷 幸三
	中川 徹
	橋本 光男
	濱 朝子
	春田 稔
山本 善徳	
第3分科会	赤尾 隆
	阿部 智子
	佐藤 正幸
	新堂 順規
	友田 達郎
	長谷川 庸司
	畑中 忠司
	松森 重博
	吉田 俊夫
寮 美千子	

分科会	氏名
第4分科会	アダルシュ シャルマ
	岡本 胤継
	奥村 麻希子
	北 良夫
	小島 道子
	笹部 和男
	高松 典正
	宮本 郁江
	森口 哲也
第5分科会	山本 素世
	北浦 由香
	北野 剛人
	サマン ペレラ
	四反田 喬典
	田北 ますみ
	反田 博俊
	中西 輝
	濱 恵介
第6分科会	松永 洋介
	植田 正博
	武村 俊宏
	多田 充朗
	田中 保夫
	村田 勝彦
	元島 満義
	渡邊 新一

(2) 奈良市まちづくり市民会議 検討経過

開催年月日 [出席者数]	会議名	会議プログラム
2009年 10月 9日 [48名]	第1回 会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市長あいさつ 2. 奈良市第4次総合計画の策定について(事務局説明) 3. 奈良市まちづくり市民会議の役割について(事務局説明) 4. グループワーク 『会議のルールについて』 5. 奈良市の現況について(事務局説明) 6. 今後の会議の進め方について(事務局説明)
2009年 11月 6日 [47名]	第2回 会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事務局の紹介と本日の進行について 2. 本会議の位置づけと運営について(前回の質問等への回答を含む) 3. 前回のグループワークの振り返り(会議のルールの確認) 4. グループワーク 『奈良市の魅力と悩みを考えましょう。』 5. 全体まとめ
2009年 11月27日 [45名]	第3回 会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 前回の振りかえり(分科会テーマの最終確認) 3. 分科会設置及びメンバーの決定 4. グループワーク(分科会ごと) 『奈良市のテーマ別将来都市像づくり(1)』 5. 閉会
2009年 12月18日 [38名]	第4回 会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市民会議からの提案書について(事務局説明) 3. グループワーク(分科会ごと) 『奈良市のテーマ別将来都市像づくり(2)』 4. 各分科会の中間発表 5. 閉会
2010年 1月15日 [46名]	第5回 会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 奈良市勢の概要について(事務局説明) 3. グループワーク(分科会ごと) (1)『奈良市のテーマ別将来都市像づくり(3)』 (2)各分科会の代表の選出 4. 閉会
2010年 2月 9日	第6回 会議	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 グループワーク(分科会ごと) (1)『奈良市のテーマ別将来都市像づくり(4)』 (2)各分科会の代表の選出(第5回会議で選出していない分科会のみ) 3 各分科会の「テーマ別将来像」発表 4 「奈良市全体の将来像」を考えるためのキーワードについて(事務局説明) 5 市民会議代表・副代表の選出について(事務局説明) 6 閉会

開催年月日 [出席者数]	会議名	会議プログラム
2010年 2月19日	第7回 会議	
2010年 3月26日	第8回 会議	

本日、今後開催される会議、自主的な会合の概要を整理予定。

第8回会議での 発表について

第8回の発表について

会場前のスクリーンにパワーポイントの
スライドを表示しながら、発表していただき
ます。

市全体の将来像の発表（10分）

テーマ別将来像の発表
（1分科会につき10分）

第8回発表で使用するパワーポイントについて

- パワーポイントは、提案書の内容をもとに、事務局で用意します。
- 当日のパワーポイントの操作も補助します。



各分科会のパワーポイントをより充実した内容にしたい場合

各分科会の委員の方々に追加・修正していただいても構いません。

(原案・フォーマットデータは提供いたします。)

分科会説明用パワーポイントの構成

- 1 表紙 (分科会名・テーマ・分科会メンバー氏名)
【スライド1枚】
- 2 テーマ別将来像
【スライド1枚】
- 3 背景(現状と課題)
【スライド2～3枚】
- 4 このテーマについて私たちの考える将来像
【スライド2～3枚】
- 5 テーマ別将来像 結論として再掲
【スライド1枚】

例

提案書の内容が確定した時点で、このようなパワーポイントを事務局が作成します。
この状態のデータの提供は、3月12日以降となります。

第2分科会

魅力を生かしたまちづくり

表紙【スライド1枚】

分科会名、テーマ、分科会メンバー氏名を記入

上野 登統、榎本 止範、小西 元治、
澤崎 嘉造、谷 幸三、中川 徹、
橋本 光男、濱 朝子、春田 稔、
山本 善徳

(例)第2分科会

テーマ別将来像

『時を超え、自然を
守り、活かす、伝えるまち』

テーマ別将来像
【スライド1枚】

背景(現状と課題)

奈良市の魅力を取り巻く問題

【目に見えるもの】

豊かな歴史
 (例: **背景(現状と課題)**
【スライド1~2枚】 見、伝統行事、
キーワードを列記)

【目に見えないもの】

先人の思い(平和への思い、おもてなしの心)
 積み上げてきた歴史そのもの

背景(現状と課題)

奈良市の魅力を取り巻く問題

“点”として存在

➡ 魅力同 **背景(現状と課題)** づらい
 市全体 **【スライド1~2枚】** ない。
 魅力をわか **キーワードを列記** 意が
 整っていない

時代とともに資源がなくなっている
 未だ魅力として認識されていないものもある

**大きな
 要因**

**皆が、今ある資源を当然のことと捉え、
 恩恵と感じていない**

このテーマについて私たちの考える将来像

『時を超えた歴史と自然を
守り、活かし、伝えるまち』とは

- ▶ 魅力()
守り、
あふれ
- ▶ 皆が魅力を知り、いつくしみ、
恩恵を感じている
世界や未来に伝えている

このテーマについて
私たちの考える将来像
【スライド2～3枚】
キーワードを列記

このテーマについて私たちの考える将来像

皆が魅力を知り、恩恵とを感じるまち

- ▶ 魅力を**再確認・再発見**
↑ ()
み解く
目を通す
- ▶ 魅力を
特に
世界と交流・情報発信

このテーマについて
私たちの考える将来像
【スライド2～3枚】
キーワードを列記

このテーマについて私たちの考える将来像

まち全体が魅力にあふれるまち

- ▶ 再確認
・その
・必要
(RE) **このテーマについて
私たちの考える将来像
【スライド2～3枚】
キーワードを列記** **守り、活かす**
- ▶ 先人の思いから心のあり方も学び、**活かす**
市民の心も豊かになる(=魅力になる)

テーマ別将来像

『**時を超え** **テーマ別将来像** **自然を**
守り、活かす、伝えるまち』
【スライド1枚】

この状態のデータ(フォーマットデータ)は、
本日から提供できます。

第 分科会

テーマ

(分科会メンバー氏名)

テーマ別将来像

『テーマ別将来像』

背景(現状と課題)

タイトル

提案書の内容を箇条書き

このテーマについて私たちの考える将来像

タイトル

▶ 提案書の内容を箇条書き

テーマ別将来像

『テーマ別将来像』

奈良市まちづくり市民会議（第7回）のふりかえり

お名前（ ）

1 本日の話し合いの感想をお書きください。

2 その他、ご意見・ご質問などがあれば、ご自由にお書きください。

このシートは、
お帰りの際、受付の回収BOXに入れていただくか、
2月24日（水）必着で、事務局（奈良市企画部企画政策課）までお送りください。

- ファクシミリ 0742-34-4900
- 郵送 〒630-8580 奈良市二条大路南1-1-1
奈良市役所企画部企画政策課 行
- 電子メール ①, ②の内容をメール本文に記入し、
kikakuseisaku@city.nara.lg.jp 宛に送信してください。

● 参考資料

「奈良市民意識調査報告書 平成21年度（抜粋）」

→「奈良市市民意識調査報告書 平成21年度」から、次のページを抜粋したものです。

- ・ 1 ページ（調査目的、調査項目、調査方法、回収結果）
- ・ 5～6 ページ（「奈良市の将来像について」の単純集計結果）
- ・ 19～24 ページ（「奈良市の将来像について」の集計結果の分析）
- ・ 調査票 1 ページ（「奈良市の将来像について」の間）

なお、報告書の全文を、奈良市ホームページに掲載しています。

奈良市トップページ (<http://www.city.nara.nara.jp/>) > 市からのお知らせ > 意見・委員・提案募集 > 意見募集 > 募集の結果 > 平成21年度 奈良市民意識調査報告